

来年9月
新校舎完成

平成21年（2009年）8月1日発行

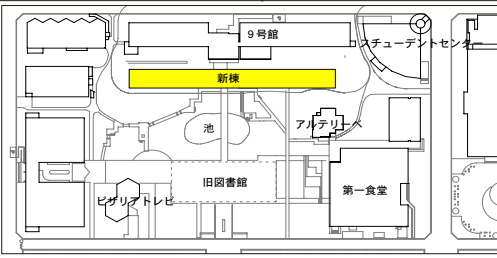
キャンパスリニューアル計画

新校舎、来年9月めざして建設

現在、キャンパスリニューアル計画の一環として、「学友門」を新設中であり、9月には完成する予定。これに付随して、本館正面玄関もリニューアルされる。さらに、新校舎も計画中であり、来年9月完成をめざしている。

新校舎は、旧図書館奥の中庭に面して9号館（現在の電気電子工学実験系研究棟・電気実験センター）と隣り合うかたちで建設される。鉄骨造の2階建てで長さ約100m×奥行き10m弱の細長いもの。延べ床面積は約1800㎡となる。

この建物には、電気電子工学科および電気実験センターと創造システム工学科が入る予定であり、9号館と新校舎を繋げて使用するよう計画されている。細長い建物の左右に両学科の部屋が振り分けられ、1階には両学科ともに展示や催しの場所となるホールが



設けられている。学科の活動や研究成果が日常的に外に現れ、学内だけでなく外部からの来訪者にとっても開かれた建物として計画されている。

この新校舎の設計を担当しているのは、本学・生活環境デザイン学科の足立真准教授。同准教授は「空間構成」を研究テーマとし、建物の空間を単体のデザインとしてでなく、インテリ

旧図書館が取り壊されることにより、キャンパスの中心部に開放的な広がりをつくられます。新校舎は中庭に対して本館を抜けた正面に建ちますが、外部空間を取り込んだ開放的なつくりとすることで、中庭と連続した学生のための場所となり、LCセンターへとつながるような奥行きをつくり出しています。外観では外壁と開口部がつくり出すパターンが、外周を覆うガラスとアルミのスクリーンと重なり合い、単調にな



新校舎完成模型

実習工場の工作機械を使い、磨き上げた技術を持えた実習教諭に協力を依頼し、実験棟を自分たちの手で建設しようということである。

この様に自分達で設計し、自分達でつくることによってきたのが、いまの大学である。新しい建物を建設する際にはこの伝統を引き継ぎ、教員が設計し、施工監理まで携わっている。最近では、百年記念館の建設に建築学科・小川教授の研究室が関わった。学生も設計段階からディスカッションに加わり、施工

誇っている。更に、今年度中には機械工学科棟屋上に150Kwのソーラー発電システムの導入が決まっております。他大学の追随を許さない規模となるだろう。

平成13年には国際環境規格ISO14001を導入したが、これも自力で行っており、最近ではその実績が認められ、他大学が導入する際の参考事例として講演を行ったり、相談にのったりしているという。こうした精神に基づき、全教職員が力を合わせ、更なる学園の発展に邁進していただきたい。

「自力」の伝統精神を引き継ぎ、更なる発展を



理事長
大川 陽康

本学園は創立102年を迎えたが、学園創立以来「自力」でものづくりを行ってきたという伝統を持ち、これを大事にしている。その一例が、大学に今も残っている実験棟である。大学開設当時、教室は完成したものの、工業大学に不可欠の実験棟は未整備であった。当時、日本一の実習設備を備えた東工学園が作った大学である。実験棟が未整備であるという状況は何としても克服すべき課題であるが、財政は厳しかった。そこで、我々が取った手段は、学園が誇る

の段階もつぶさに見ている。これは教育的にも大変素晴らしいことで、他大学ではなかなか得られない貴重な体験であると認識している。今度、生活環境デザイン学科・足立真准教授が設計し、旧図書館奥に新校舎を建設するが、これも従来の伝統を引き継ぎ、学生も参加していくことが期待されている。

また、本学では世の中に先駆けて平成12年にソーラー発電システムを導入、大学としては世界2位、日本の大学では1位の313・1Kwの発電規模を

第2回

学園協議会開催

本学園の創立記念日である6月29日（月）に第2回「学園協議会」が附属・高校「100周年記念ホール」で開催された。この会は、創立記念日に全学園の運営責任者が一堂に会し、将来の学園について意見交換を行う目的で昨年から始めたもの。大川理事長から「6月29日は、明治40年に設立認可された学園が幾多の苦難を乗り越え、昭和6年（財）東京工科学校に組織変更された日であること。学園は『自力』が伝統であり、その精神に基づき全教職員が力をあわせ学園の発展を」との挨拶があった。続いて中・高校の大森校長より「附属中高の現状と将来展望―生徒募集の視点から―」と題し講演があった。内容は①健全財政の確保②安定的な生徒募集の展開③日本工業大学への継続的推薦の視点から中・高の現状とその背景および将来展望等について、講演後意見交換を行った。その後、会場を移し懇親会が行われ盛会裏に閉会した。

本学で開催されるコンテスト・イベント —どうぞ奮ってご参加ください—

6/7(日) ミニオープンキャンパス開催(報告)

6月7日(日)、ミニオープンキャンパスが開催された。当日は天候に恵まれ、昨年を上回る大勢の高校生や保護者の方が参加。午前・午後の2部構成で、参加者の希望にあわせて選べる分野体験や進路ガイダンスなどが好評だった。



インテリアデザインラボで体験授業



個別ガイダンス

オープンキャンパスのお知らせ

オープンキャンパス

2009 8/22(土) 9/13(日) 11時より(昼食付き)
無料バスを運行! 詳細は本学WEBサイトでご確認ください。

ミニオープンキャンパス

2009 10/3(土) 午前の部: 10時より(昼食付き)
午後の部: 14時より(ドリンク付き)

進学相談会

2009 10/18(日) 午前の部: 10時より(昼食付き)
午後の部: 14時より(ドリンク付き)

詳細は本学ホームページでご確認ください。
参加申込みをされた方には、当日ステキなプレゼントをご用意しています!

お問い合わせ・お申込み先: 日本工業大学 教務部入試室
〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台 4-1
☎0120-250-267 E-mail: nyu-shi@nit.ac.jp
URL: www.nit.ac.jp 携帯URL: www.nit.ac.jp/k

3-D CAD プロダクトデザインコンテスト



エントリー締切 8/15 結果発表授賞式 10/4
3D-CADを駆使し、斬新かつ独創的なアイデアをコンピュータ上で表現してください。今年が記念すべき第1回。対象は高校生で、テーマ部門と自由デザイン部門の2部門があります。

作品送付先/お問い合わせ先

機械工学科 3D-CADプロダクトデザインコンテスト事務局 長坂保美
TEL: 0480-33-7619 E-mail: nagasaka@nit.ac.jp
http://leo.nit.ac.jp/~nagasaka/pd-contest/index.html

第23回 日本工業大学建築設計競技



提出期限 8/31 結果発表 9月末
建築を学ぶ高校生を対象とした建築設計の腕試しの場として、また本学建築学科の設計教育活動の一環として、毎年このアイデア・コンペを開催しています。今回の課題は「小さな豪邸」です。

作品送付先/お問い合わせ先

日本工業大学 建築設計競技委員会
TEL: 0480-33-7681 E-mail: kenchiku-compe@nit.ac.jp
http://www3.nit.ac.jp/kenchiku/

第3回 日本工業大学マイクロロボコン



エントリー締切 8/22 開催日 9/12
わずか1インチ(2.54cm)角の大きさの「マイクロライントレースロボット」を設計・製作していただき、走行競技用コース1周の最短時間を競う、高校生対象の大会です。

お問い合わせ先

工業教育研究所 原田 昭
TEL: 0480-33-7512 E-mail: akih@nit.ac.jp
http://ise.nit.ac.jp/mrc.html

第13回 スターリングテクノロジー



申込締切 9/11 開催日 11/14
自作スターリングサイクル機器の性能とアイデアを競う競技会です。人間乗車、宙返り耐久、ミニ速度、クーラの4クラスで競われ、小中学生から高校生、一般の方まで参加できます。

申込先/お問い合わせ先

埼玉大学総合研究機構内 運営委員長 松尾政弘
TEL&FAX: 048-858-3098 E-mail: stirling@infoseek.jp
http://members.jcom.home.ne.jp/stirling/

専門職大学院研究科長 就任にあたり

研究科長・教授
佐久間陽一郎

専門職大学院技術経営研究科開設から4年余りが経過した。初代研究科長村川正夫先生のリーダーシップのもと、専門職大学院ではこれまで数百数十名の技術経営修士を輩出してきた。私事、このたび後任を仰せつかることとなり、その責任の大きさに身の引き締まる思いである。また微力ながら、この大学院の社会的意義を大いに世間に訴えていく所存である。

世界は今、100年に一度ともいわれる大不況の中にあり、各国は景気浮揚策を模索している。アメリカの場合、究極的には個人個人の企業家精神の発揚とそれによるイノベーションの促進である。そしてその鍵を握るのはベンチャーに他ならない。日本もそれではベンチャーかといえはそうではない。日本経済の回復の鍵は、中小製造業の再

活性化にかかっている。

技術のイノベーションは、漸進的イノベーションと破壊的イノベーションの二つに分けることができる。米国のベンチャーが得意とするのは破壊的イノ

至った。この背後に日本工業大学の貢献があることは言を待たぬであろう。このコア・テクノロジーをいかにビジネスにつなげるかという課題に取り組み

ある。日本のGDPはそうそう伸びるものではないが、日本の前庭であるアジアは、長期的に見れば、日本の数十倍の規模に成長する。日本の中でコア・テクノロジーを確立した中小製造業の成長ポテンシャルは絶大



授業で、「知的ランナーズ・ハイ」について語る佐久間教授

であり、元気な中小企業の集合体こそが、日本の経済の活性化の鍵を握っている。このプロセスにわれわれ専門職大学院が貢献できるなら、これに勝る喜びはない。今、修士号を取得した修

了生は、それぞれの職場に戻り、専門職大学院で獲得した知識やスキルを思う存分発揮し、リーダーとして大いに活躍されている。その中には、日本工業大学の卒業生も10名弱含まれている。その中の1名は日産ディーゼルから日本工業大学の助教に転身している

(岡崎昭仁先生)。

本大学院では、一方で実

業を持ちながら、一年で修士号を取得するという、極めて意欲的なカリキュラムを組んでいる。院生は従っ

て、これまでに経験のないような多忙状態に置かれることになる。しかし院生は、

熱い「知的シャワー」を浴び、興奮してその状態を楽しんでいるように見受けら

れる。日本工業大学卒業の皆さまも、この院生達の列

に並ばれ、自らのキャリアを切り拓かれんことを望む

次第である。

2009NEW 環境展に出展



本学の出展ブースの様子

2009NEW環境展が5月26日(火)～29日(金)の4日間にわたり、東京有明にある「東京ビックサイト」で開催された。本環境展は「守ろう地球・創ろう共生社会」をテーマ

に、海外へも環境技術の輸出を募っており、世界へ環境問題改善への情報を発信しようとするもの。規模もアジア最大規模で、今年、出展社数559社、2023小間(コマ)。来場者数は17万人で年々増加傾向にあり、環境への関心の高まりを象徴している。本学は2002年から8年連続で出展しており、「キャンパスがまるごと環境博物館」をテーマに、本学の環境への取り組みとキャンパスのエココミュニケーション化を紹介した。本学のブースを訪れた

方々の中には本学の環境への取り組みや環境分野の研究等に興味を持ち、共同研究を検討したいという問い合わせ等も数件寄せられた。本学の環境への取り組みは大学間でも注目されつつあり、6月17日に開催された日本私立大学協会主催「地球環境温暖化に関する研究協議会」で本学施設営繕課・鈴木功作課長が事例発表を行うなど、高く評価されている。また、他大学がISO14001を認証取得する際の相談等、各種問い合わせも環境推進事務局に寄せられている。

ISO サーベイランス受審

ISO14001の2年次サーベイランスが5月21日(木)～22日(金)の2日間にわたり、JACO(日本環境認証機構)審査員2名によって実施された。

初日の午前中には神田の専門職大学院、午後からは宮代キャンパスの審査が行われた。また、新学科である「ものづくり環境学科」、「生活環境デザイン学科」についてもシステムの変更として捉え、審査対象として現場審査が行われた。

いずれの審査項目においても不適合は指摘されず、システムが有効に機能しているとの評価が行われた。特に内部監査、マネジメントレビューの有効性については、その方法等総合的な角度から見直されているといった評価がなされた。



ものづくり環境学科での現場審査

来年は3回目の更新審査を迎えることになるが、更なる継続的改善を図っていくことを期待する旨の説明がなされ、審査を終了した。

学生自治会主催の 主な学生行事

学生自治会の各委員会が主催する主だったイベントを紹介する。

7月4日、学生自治会が主催するボウリング大会が開催された。数ある学生自治会の行事の中でも、人気の高い行事の一つだ。今回も募集をかけてから10日ほどで受付終了となった。当日は、18時30分からビックホール杉戸で34レーンをすべて貸し切って行われた。

1チーム4名で構成され、1名が2ゲーム行う。成績上位者ならびにチームには、主催者である中央執行委員会工藤委員長から豪華賞品が授与された。

春学期試験が終わると、8月4日から5日の2日間、夏祭り大会が行われる。昨年は情報工学科棟前の中庭を会場として行ったが、今年は従来の体育館前に戻して行う。会場には、櫓が

組み上げられてその周りでは盆踊りや浴衣コンテストなど様々な企画が行われる。そして、最後を飾るのは、打上げ花火。今年も100発を超える花火が夏の夜空を彩り、夏祭りは締めくくられる。学生たちは、8月1日から9月20日まで約2ヶ月間の夏季休業となる。その間には、夏合宿を行うクラブ団体も多い。運動を取りまわっている体育会では、1年生を対象に普段のクラブ活動では体験できない互いの親睦を図ることを目的として実施されている。

専門職大学院オープンキャンパス

2009

7/25(土)
10/31(土)
12/5(土)

2010

2/13(土)
※各日とも13:00開始

■パネルディスカッション
■説明会
■キャンパスツアー
■模擬授業等を予定
※詳細はWEBサイトへ
<http://mot.nit.ac.jp/>

お問い合わせ先
日本工業大学 専門職大学院
TEL. 03-3511-7591
Mail: mot@kanda.nit.ac.jp

2010年度専門職大学院 試験日

第1回募集 2009/9/13(日) 第2回募集 2009/11/15(日) 第3回募集 2010/1/10(日) 第4回募集 2010/2/28(日)

本学で先端技術研究の取り組みを

社会人大学院生 募集

(日本工業大学大学院 社会人特別選抜)

◆大学院工学研究科 博士前期課程・博士後期課程

※機械工学専攻 ※電気工学専攻 ※建築学専攻
※システム工学専攻 ※情報工学専攻

■平成22年度 大学院 社会人特別選抜入試日程

	日程			
	受付時間	面接試験	合格発表	手続締切
一次募集	平成21年9月24日～10月2日	10月9日	10月16日	平成22年1月26日
二次募集	平成22年2月13日～19日	2月26日	3月4日	平成22年3月12日

お問合せ先：教務部教務課 大学院入試係
TEL 0480-33-7507 URL <http://www.nit.ac.jp>

平成22年度入試概要

・各入試の詳細はそれぞれの「募集要項」でご確認ください。

入試種別	内 容	日 程				
		第1期	第2期	第3期	第4期	第5期
AO入試	AOエントリー入試 ・面談および提出課題と調査書等による書類審査による選考	エントリー入試のエントリー期間	7/ 1(水)～8/ 6(木)	8/17(月)～9/15(火)	10/ 1(木)～11/20(金)	11/24(火)～12/17(木)
		コーディネータ入試の申込期間	平成22年3月上旬まで、随時受付			
	AOコーディネータ入試 ・面談および書類審査 ※面談のほかに課題を課す場合もあります	面談・面接等	書類受理後に連絡			
		出願期間	9/ 1(火)～9/14(月)	10/ 1(木)～10/ 7(水)	12/ 4(金)～12/15(火)	1/ 7(木)～1/13(水)
		選考	書類審査等			
		合格発表	9/19(土)	10/17(土)	12/26(土)	1/22(金)
特別奨学生入試	第1期 ・書類審査および面接による選考	入学手続締切	第1回 9/30(水)	第2回 10/27(火)	1/20(水)	1/29(金)
		第2回	1/20(水)	1/20(水)	3/26(金)	
	第2期 ・筆記試験および調査書による選考 ・奨学生には、1年次の学費の半額を免除	第1期		第2期		
		申込期間	8/21(金)～8/28(金)			
		面接日と面接会場	9/ 5(土) 本学			
		内定日	9/ 8(火)			
カレッジマイスター入試	第1期 ・書類審査および面接による選考	出願期間	9/ 8(火)～9/14(月)		1/ 7(木)～1/28(木)	
		試験日と試験会場			1/31(日)～2/ 2(火) 本学	
	第2期 ・筆記試験および調査書による選考 ・奨学生には、1年次の学費の半額を免除	合格発表	9/19(土)		2/12(金)	
		入学手続締切	第1回 9/30(水)	第2回 1/20(水)	2/23(火)	
		第2回	1/20(水)			
		申込期間	8/21(金)～8/28(金)			
専門高校入試 (B 工業科)	第1期 ・書類審査および面接による選考 ・工業科の生徒が対象	面接日と面接会場	9/ 5(土) 本学			
		内定日	9/ 8(火)			
	第2期 ・書類審査および面接による選考 ・工業科の生徒が対象	出願期間	9/ 8(火)～9/14(月)			
		合格発表	9/19(土)			
		入学手続締切	第1回 9/30(水)	第2回 1/20(水)		
		第2回	1/20(水)			
一般推薦入試 (公募制)	第1期 ・書類審査および面接による選考 ・工業科の生徒が対象	出願期間	10/26(月)～11/11(水)		11/26(木)～12/15(火)	
		面接日と面接会場	11/11(水) 盛岡・東京・岡山 11/12(木) 郡山・長野 11/13(金) 横浜・新潟 11/14(土) 本学		12/19(土) 本学	
	第2期 ・書類審査および面接による選考 ・工業科の生徒が対象	合格発表	11/21(土)		12/26(土)	
		入学手続締切	第1回 11/30(月)	第2回 1/20(水)	1/20(水)	
		第2回	1/20(水)			
		申込期間	8/21(金)～8/28(金)			
一般入試	第1期 ・書類審査および面接による選考 ・専門高校(工業科)以外の生徒が対象	出願期間	11/ 2(月)～11/11(水)		11/26(木)～12/15(火)	
		面接日と面接会場	11/11(水) 盛岡・東京・岡山 11/12(木) 郡山・長野 11/13(金) 横浜・新潟 11/14(土) 本学		12/19(土) 本学	
	第2期 ・書類審査および面接による選考 ・専門高校(工業科)以外の生徒が対象	合格発表	11/21(土)		12/26(土)	
		入学手続締切	第1回 11/30(月)	第2回 1/20(水)	1/20(水)	
		第2回	1/20(水)			
		申込期間	8/21(金)～8/28(金)			
センター利用入試	第1期 ・筆記試験および調査書による選考	出願期間	1/ 7(木)～1/28(木)		2/ 4(木)～2/17(水)	
		試験日	1/31(日) 本学・郡山・水戸・高崎 2/ 1(月) 千葉・東京・静岡 2/ 2(火) 本学・仙台・柏・東京 横浜・新潟・長野 本学		2/20(土) 本学・東京	
	第2期 ・筆記試験および調査書による選考	合格発表	2/12(金)		2/26(金)	
		入学手続締切	2/23(火)		3/ 4(木)	
		第2回	2/23(火)			
		申込期間	8/21(金)～8/28(金)			

・専門高校入試 (A 工業科) および一般推薦入試 (指定校) については、2010受験ガイドをご確認ください。
・お問い合わせ先：教務部入試室 ☎ 0120-250-267

今年度の就職戦線

厳しい環境だが、新対策により6月後半から伸び



本学で開催された企業合同説明会の様子

2010年春に卒業予定の大学生の就職活動がまさに前半の山場を迎えている。昨秋以降、米国の金融危機の悪化で、これまで大量採用が続いた超売り手市場から様相は一変し、採用抑制を行う企業が多くなり、厳選採用が強まった。本学では、これらに対応するため昨年10月以降、就職支援ガイダンスを16回にわたり実施してきた。また、新たな対策として、6月には、内定を得ていない学生を対象に就職活動を円滑に行うためのフォローアップガイダンスを実施した。さらに今まで2月と4月の2回しか実施していなかった学生は左記3点を実施して欲しい。

①就職支援課にある求人票は最短で内定を取れる確率の高い情報源である。これらの求人情報は学内LANによる「就職支援システム」で検索することが可能で、このシステムを積極的に活用する。
②地元で就職を希望する場合は、就職支援課で本学の就職支援課長 吉見健二

就職情報以外に「学生職業総合センター」の就職情報等も閲覧する。③一人で悩まず就職支援課に顔をだし職員をどんどん利用する。最後に、厳しい環境ではあるが、就職活動は学生諸君が大きく成長するための活動のひとつであると考え、最後まで諦めないで頑張ってください。
【建設業】ナカノフドー建設3名、大東建設3名、積水ハウス1名他
【設備工事業】東電通6名、協和エクシオ3名、ユアテック3名、日本コムシス2名、住友電設2名、関電工1名、きんでん1名他
【化学】大成ラミックス3名他
【一般機械】アマダ2名、SMC1名他
【電気・機械器具】高岳製作所1名、サンデン1名他
【輸送用機械器具】本田技研工業3名、ケーヒン3名、ミツバ1名他
【運輸・電力業】JR東日本4名他
【通信・情報産業】エヌ・ティ・ティ・エムイー7名、アイ・エス・ピー3名、日立情報システムズ1名他、立情報システムズ1名他、【非営利団体】関東電気保安協会6名
(就職支援課長 吉見健二)

今年の出前授業は、昨年比2倍以上の実績

今年度は、4月末に出前授業プログラムを全国の工業系高等学校に配布するとともに、連休明けに授業プログラムを本学のウェブページに掲載し、出前授業の案内をした。
なお、それ以前に出前授業の実施は早々と4月16日から始まり、7月末までに29回の授業を行っている。また、研究室インターンシップも各高校に知れわたったので、昨年に比べ申し込みが増える傾向にある。今年で3年目の実施だが、次第に高等学校側からの良い評判も伝わってきている。
今後引き続き校内教員一同協力し、更に一層の充実を目指し、高等学校の生徒・先生方の皆さんの期待に沿えるよう努めていきたい。

第5回「本学卒業現職教員の集い」

7月11日(土)午後2時～7時、本学LCセンターにて標記の集いを開催した。当日は、現職教員70名、大学教職員80名が顔を揃えた。また、教職希望の学生50名が参加した。
第一部 研究協議会
①「義務教育における教員の職務」永野祥夫氏
第二部 講演会
①挨拶 学長 柳澤 章
②「平成22年度の入試」入試室長 川村清志
③「教員免許更新講習について」工業教育研究所長 原田 昭
第三部 学群交流会
機械システム学群、電子情報メディア学群、建築デザイン学群の三学群に分かれて、各学群・学科での交流を深めた。
第四部 懇親会
現職教員の研究発表は、日々の教育実践を踏まえた力強い内容であった。懇親会では、卒業生と大学教職員との輪があちこち



研究協議会の様子

本年度、建築学科に入學した横山さんの本学への進学の間機は、「構造計算士」である父親の仕事と関係がある。子供の頃から父親の仕事を見て育った彼女は、何時しか自分も将来の職業として、建築関係、特に「構造計算士」を意識するようになったと言う。しかし、いざ大学進学という段階で、普通科の進学校に通っていた彼女は、しばし悩むこととなった。ほとんどの生徒が「文系大学」へ進学するという周囲の環境から、自分もその方面へ進学する気持ちになっていたが、大学



古閑伸裕教授

機械工学科 古閑教授が 日本塑性加工学会から「技術賞」

機械工学科の古閑伸裕教授が、平成21年5月に開催された(社)日本塑性加工学会総会後の贈賞式において、日本塑性加工学会技術賞(天田賞)を受賞した。

日本塑性加工学会は塑性加工に関する研究発表、研究の連絡協力および促進を図り、塑性加工に関する学術上の進歩向上に寄与することを目的として、昭和36年に創立した学会であり、正会員数3531名。本賞は、塑性加工とその関連技術のうちの板金加工技術、プレス加工技術、または地球環境への負荷低減技術で時代的要請に応じた学問・技術開発上の顕著な業績に対して贈られるものである。古閑教授の受賞の対象となった業績は、学内特別研究(共同研究)にも採択された、「サーボプレスを利用した加工技術の開発の研究」において、様々な環境負荷低減技術を開発したこと。すなわち、2006年に私学助成金により本学に入されたサーボプレスを用い、プレスのスライド制御

6/23(火) 第2回留学生交流会開催

留学生交流会が、6月23日(火)午後6時30分から学友会館で開催された。この会は、近年の留学生数の増加に伴い平成19年から毎年開催しており、新入生はもちろん、在籍している留学生同士にさらなる交



学長を囲む留学生達

し、ここで新たな悩み不安を抱える事となる。それは決定時期がいささか遅かったが故に、オーブンキャンパス等で事前の環境から、自分もその方面へ進学する気持ちになっていたが、大学



横山裕香さん
建築学科1年・卒業アルバム委員会
(私立盛岡白百合学園高等学校出身)

夢に向かってチャレンジ

高校の時も家からは通学ができず、一人暮らしをしていましたとのこと。板についてもほとんどの大学では自分で用意しなければならず、本学の設備が選択時のアドバンテージの一つになったこと

は、想像に難くない。「暇な状態が我慢ならない」という彼女は、大人しそうな外観とは異なり、かなりアクティブで、現在、卒業アルバム委員会の編集局員として活躍している。委員会に所属した理由は「以前から写真に興味があり、入学式等で委員たちが記録写真を撮影しているのを見て、自分もぜひ参加してみたいと思った」とのこと。最後に将来の希望を聞いてみた。すると「やはり父と同じ構造計算士が教員になりたいと考えている」と話してくれた。どちらを選ぶにせよ、持ち前のチャレンジ精神と行動力、夢を現実のものとするであろう。

インタビューの最中、終始丁寧な言葉遣いと落ち着いた応待が、とても印象的で好感が持てた。

■出前授業実施・予定校

	実施日	実施校	題目
1	4/16(木)	東京都立工芸高等学校	大学への進路ガイダンス
2	5/15(金)	杉戸町立杉戸中学校	ぼくは「交通」管制官～渋滞のないクリーンな「みちづくり」
3	5/15(金)	杉戸町立杉戸中学校	身近な地球温暖化対策は、どのくらい効果があるのか考えてみよう
4	5/15(金)	杉戸町立杉戸中学校	文明の跡地は砂漠になる(森を創る文明・森を壊す文明)
5	5/15(金)	杉戸町立杉戸中学校	だまし絵の秘密
6	5/16(土)	埼玉県立越谷総合技術高等学校	かけ引きの科学
7	5/16(土)	埼玉県立越谷総合技術高等学校	21世紀は炭素の時代(電気釜からボーイング787まで)
8	5/27(水)	埼玉県立春日部工業高等学校	建物を建てる地盤の選び方
9	5/27(水)	埼玉県立春日部工業高等学校	Ultrasonics 静かな機械エネルギー「超音波」の不思議
10	5/28(木)	千葉県立東総工業高等学校	世界を驚かせた新幹線電車の苦難の開発からインバタ時代の今日まで
11	5/28(木)	新潟県立新潟県中央工業高等学校	大学への進路ガイダンス
12	5/30(土)	群馬県立藤岡工業高等学校	ちいさな働き者の話(モーターのはなし)
13	6/2(火)	栃木県立宇都宮白楊高等学校	挑戦!次世代ロボット
14	6/6(土)	群馬県立前橋工業高等学校	挑戦!次世代ロボット
15	6/18(木)	埼玉県立越谷総合技術高等学校	ロボット技術の使い方
16	6/18(木)	埼玉県立三郷北高等学校	ナノって何?どうして今世界中が注目しているの?
17	6/19(金)	福岡県教育センター	3次元CADを学ぶ
18	6/19(金)	福岡県立香椎工業高等学校	3次元CADを学ぶ
19	6/24(水)	静岡県立沼津工業高等学校	光る半導体—LEDの基礎
20	6/24(水)	静岡県立沼津工業高等学校	21世紀は炭素の時代(電気釜からボーイング787まで)
21	6/25(木)	埼玉県立鳩ヶ谷高等学校	「もったいない精神」で毎日の生活をみなおす
22	6/25(木)	東京都立練馬工業高等学校	ロボットが世界を視る方法・ロボットビジョンの紹介
23	6/27(土)	第4回「大学授業体験合同講座」	平行二輪車「セグウェイ」で体感するロボット制御の基礎
24	7/13(月)	群馬県立館林商工高等学校	平行二輪車「セグウェイ」で体感するロボット制御の基礎
25	7/15(水)	埼玉県立玉川工業高等学校	パソコンの蓋を開けたことはありませんか?
26	7/17(金)	東京都立杉並工業高等学校	次世代の電気自動車
27	7/28(火)	茨城県立勝田工業高等学校	コンピュータグラフィックスのしくみ
28	7/28(火)	茨城県立勝田工業高等学校	音のデジタル処理～デジタルで広がる音の世界～
29	7/28(火)～29(水)	埼玉県立久喜工業高等学校	パソコン組み立て講座
30	9/1(火)	栃木県立那須清峰高等学校	面白い科学の演示実験
31	9/11(金)	茨城県立土浦工業高等学校	建築設計の魅力
32	9/18(金)	茨城県立土浦工業高等学校	住宅設計のプロセス
33	9/16(水)	埼玉県立浦和工業高等学校	平行二輪車「セグウェイ」で体感するロボット制御の基礎
34	9/28(月)	群馬県立伊勢崎工業高等学校	挑戦!次世代ロボット
35	11/26(木)	群馬県立伊勢崎工業高等学校	身の回りに潜む自然の秘密

卒業後10年毎の皆様へ 11／1(日)第10回ホームカミングデーへのお誘い ーホームカミングデー実行委員会よりー



工業技術博物館を見学するOB（昨年の様子）

ホームカミングデーが11月1日（日）に開催される。卒業後10年毎の節目の皆さんにお集まりいただくこの企画も今年で10回目。博物館・各センターを中心とした学内見学ツアー、学食の試食や懇親パーティを予定。大好評の抽選会では盛り沢山の景品を用意。是非声を掛け合って、旧友や現旧教職員と思い出に残るひと時を過ごしていただきたい。



参加者全員での記念撮影（昨年の様子）

本学ウェブページ 全面リニューアル

7月1日、本学のウェブページが一新された。デザイン的にはブルーを基調とした、さわやかな印象で統一。サイト全体の再構築とあわせて、コンテンツの充実、利用者にとって使いやすいナビゲーションを目指した。「キャンパスフォトアルバム」など、大学の最新情報や話題を迅速に伝えるコンテンツも新設。今後も拡充を続けていく。

URL <http://www.nit.ac.jp/>



リニューアル後のトップページ



職員の指導を受け盛付けを行う中学生

7月9日・10日の2日、daysチャレンジの一環として、昨年、一昨年に続き本学の学生・生徒2名が、社会体験学習を行った。これは「生徒1人ひとりが働くことの尊さを知ると共に、自らの進路についてより深く学び、その目的をもつて、須賀中学校では積極的に取り組んでいるものであり、派遣事業所の一つとして本学の食堂が指定された。生徒たちは普段、学校の学習では得られない貴重な体験をした事であろう。

宮代町立須賀中學生、 本学スチューデントセンター食堂で社会体験学習 「daysチャレンジ」

「daysチャレンジ」の一環として、昨年、一昨年に続き本学の学生・生徒2名が、社会体験学習を行った。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

の実施であった。

</